

平成22年7月9日

ニッケ グループ

平成22年11月期 第2四半期
(平成21年12月～平成22年5月)

決算説明資料



ニッケ（日本毛織株式会社）

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

連結業績概要

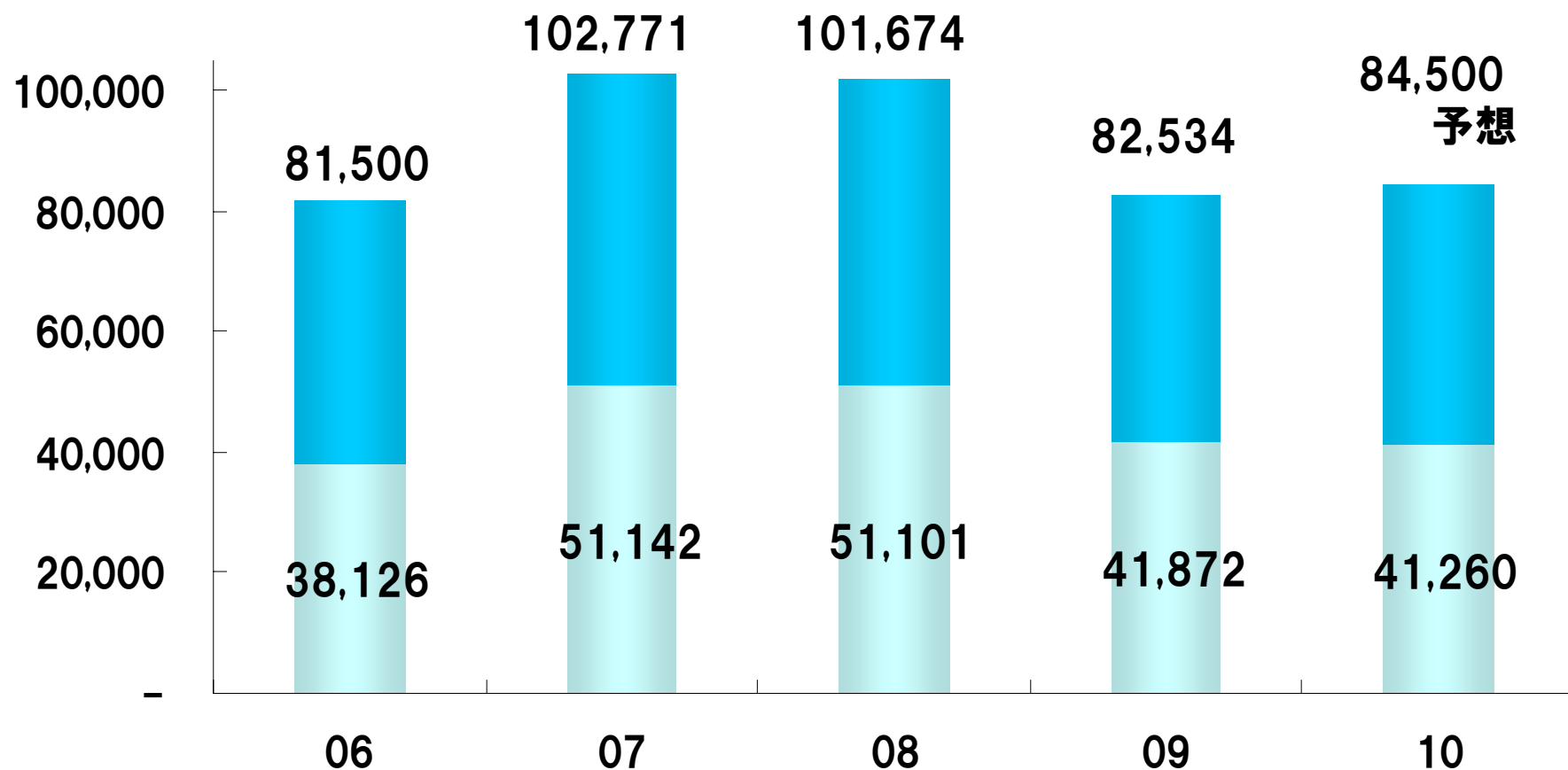
	06年	07年	08年	09年	10年2Q
売上高 (百万円)	81,500	102,771	101,674	82,534	41,260
営業利益 (百万円)	6,052	6,709	6,984	2,799	2,077
経常利益 (百万円)	6,519	7,004	6,945	2,451	2,330
当期純利益 (百万円)	4,143	4,380	4,035	797	1,498
1株当たり 当期純利益 (円)	50.23	53.08	49.22	9.90	18.63

連結業績概要

(百万円)

売上高

通期
2Q

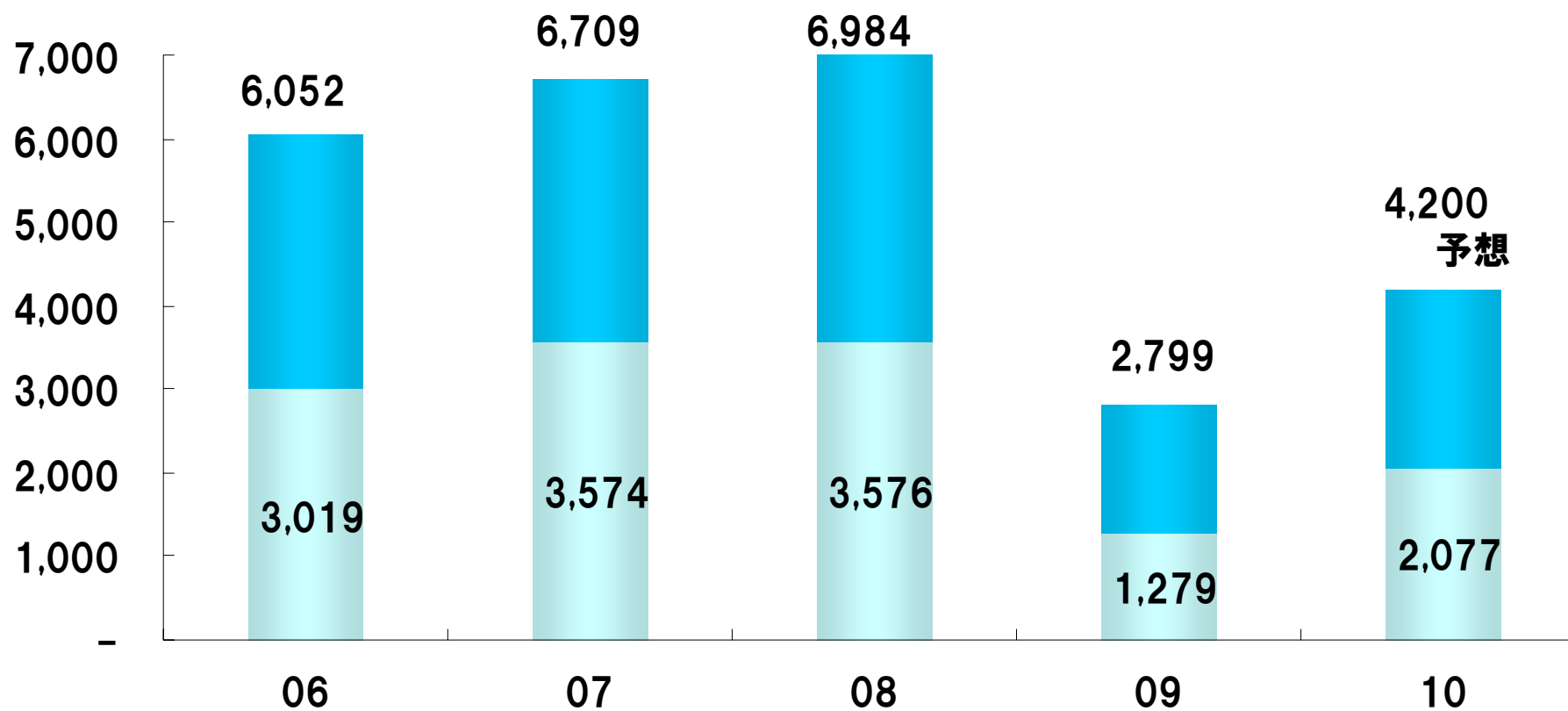


連結業績概要

営業利益

通期
2Q

(百万円)

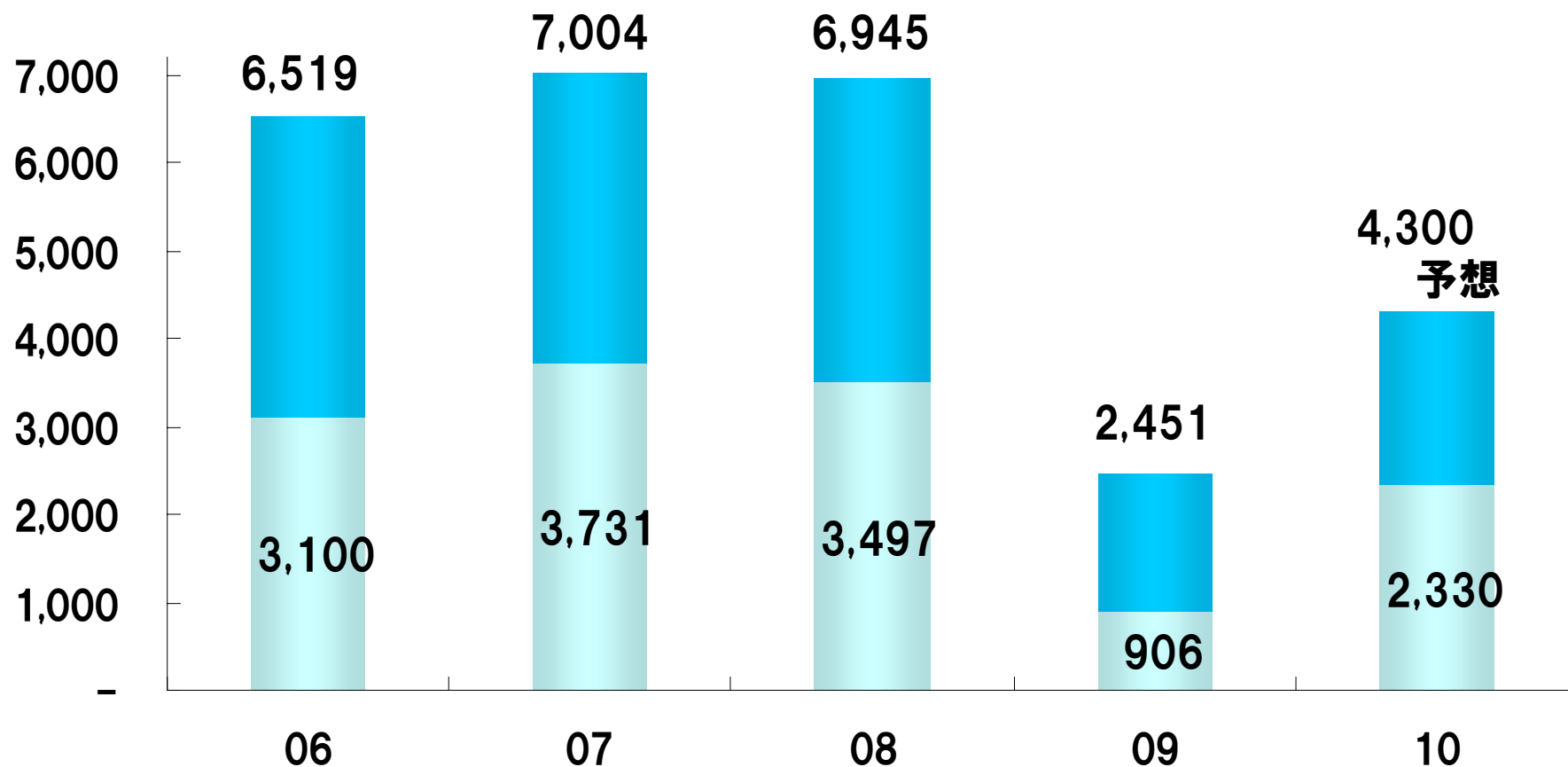


連結業績概要

経常利益

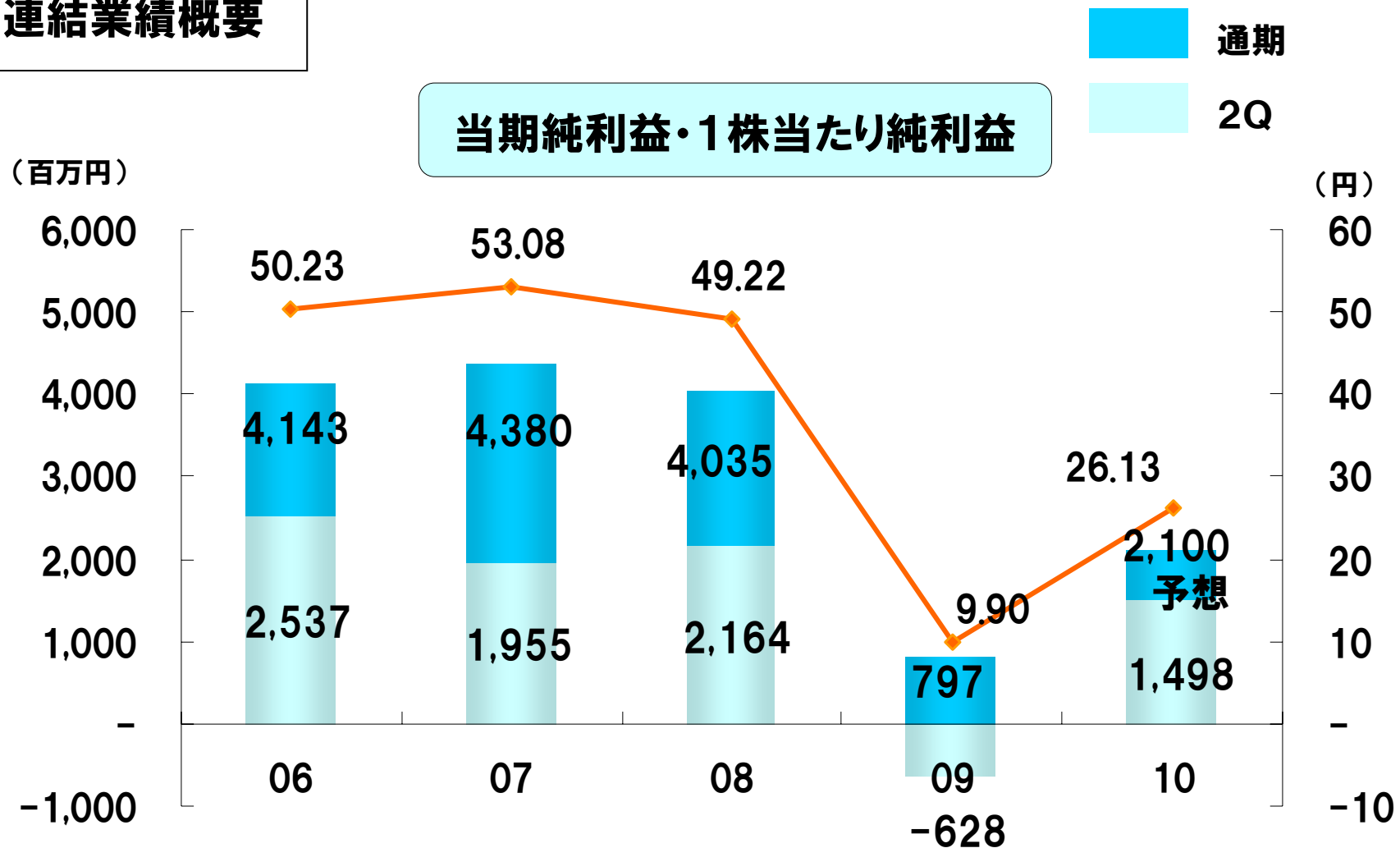
通期
2Q

(百万円)



連結業績概要

当期純利益・1株当たり純利益



連結業績概要

		09年2Q	10年2Q	増 減	
				金 額	%
売上高	(百万円)	41,872	41,260	-612	-1.46
営業利益	(百万円)	1,279	2,077	+798	+62.39
営業外損益	(百万円)	-373	253	+626	-
経常利益	(百万円)	906	2,330	+1,424	+157.17
特別損益	(百万円)	-1,637	477	+2,114	-
法人税等	(百万円)	-108	1,265	+1,373	-
少数株主損益	(百万円)	-6	-43	-37	-
当期純利益	(百万円)	-628	1,498	+2,126	-
1株当たり 当期純利益	(円)	-7.80	18.63	+26.43	-

◆売上高

資材事業において家電・自動車向けの不織布・フェルトが回復し増収となるが、衣料繊維事業では制服用素材やファッション素材等において販売数量が伸びず減収となり、全体では6億円の減収となる。

◆営業利益

コスト削減の取組みを進め、8億円の増益となる。

◆当期純利益

前年度に計上したたな卸資産評価損やSCRリニューアル費用がなくなり、21億円の増益となる。

連結業績概要

	06年	07年	08年	09年	10年2Q
総資産 (百万円)	138,718	137,969	126,642	116,962	120,005
純資産 (百万円)	78,115	77,825	71,538	69,875	71,073
1株当たり 純資産 (円)	929.77	926.56	870.77	854.35	870.78
自己資本 比率 (%)	55.3	55.4	55.7	58.9	58.3
ROE 自己資本利益率 (%)	5.4	5.7	5.5	1.1	3.0

※ 10年2Qの「ROE」については、通期業績予想の当期純利益を分子として年間予想値を算出しております。

連結業績概要

	09年	10年2Q	増減
総資産 (百万円)	116,962	120,005	+3,043
純資産 (百万円)	69,875	71,073	+1,198
1株当たり 純資産 (円)	854.35	870.78	+16.43

◆総資産

現預金、投資有価証券の増加などにより、30億円増加。

◆純資産

利益剰余金、その有価証券評価差額金の増加などにより、12億円増加。

キャッシュ・フロー

	06年	07年	08年	09年	10年2Q
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,100	3,252	7,278	10,435	3,619
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	362	-81	-3,735	-5,693	747
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-5,846	-4,340	-3,935	-3,447	-151
現金及び現金 同等物期末残高 (百万円)	11,935	11,112	10,698	11,916	16,147

キャッシュ・フロー

	09年2Q (百万円)	10年2Q (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,856	3,619
投資活動による キャッシュ・フロー	-2,110	747
財務活動による キャッシュ・フロー	3,445	-151
現金及び現金 同等物期末残高	13,815	16,147

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

純利益の増加などにより、営業活動による収入は増加。

◆投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の償還による収入の増加や固定資産の取得による支出が減少したことなどにより、投資活動による収入は増加。

◆財務活動によるキャッシュ・フロー

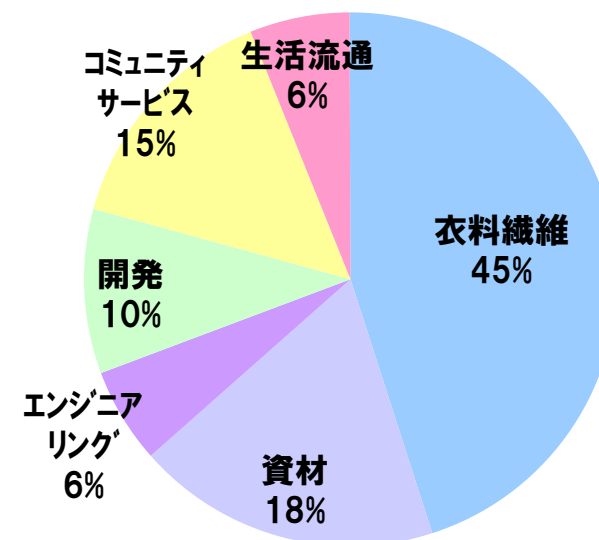
長期借入による収入が減少したことなどにより、財務活動による支出は増加。

セグメント別業績の概要

セグメント別売上高

セグメント	09年2Q (百万円)	10年2Q (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	21,167	18,541	-2,626	-12.41
資材	6,128	7,533	+1,405	+22.93
エンジニアリング	2,680	2,484	-196	-7.31
開発	3,635	4,138	+503	+13.84
コミュニティサービス	5,570	6,061	+491	+8.82
生活流通	2,689	2,502	-187	-6.95
売上高計	41,872	41,260	-612	-1.46

10年2Qセグメント別売上高比率

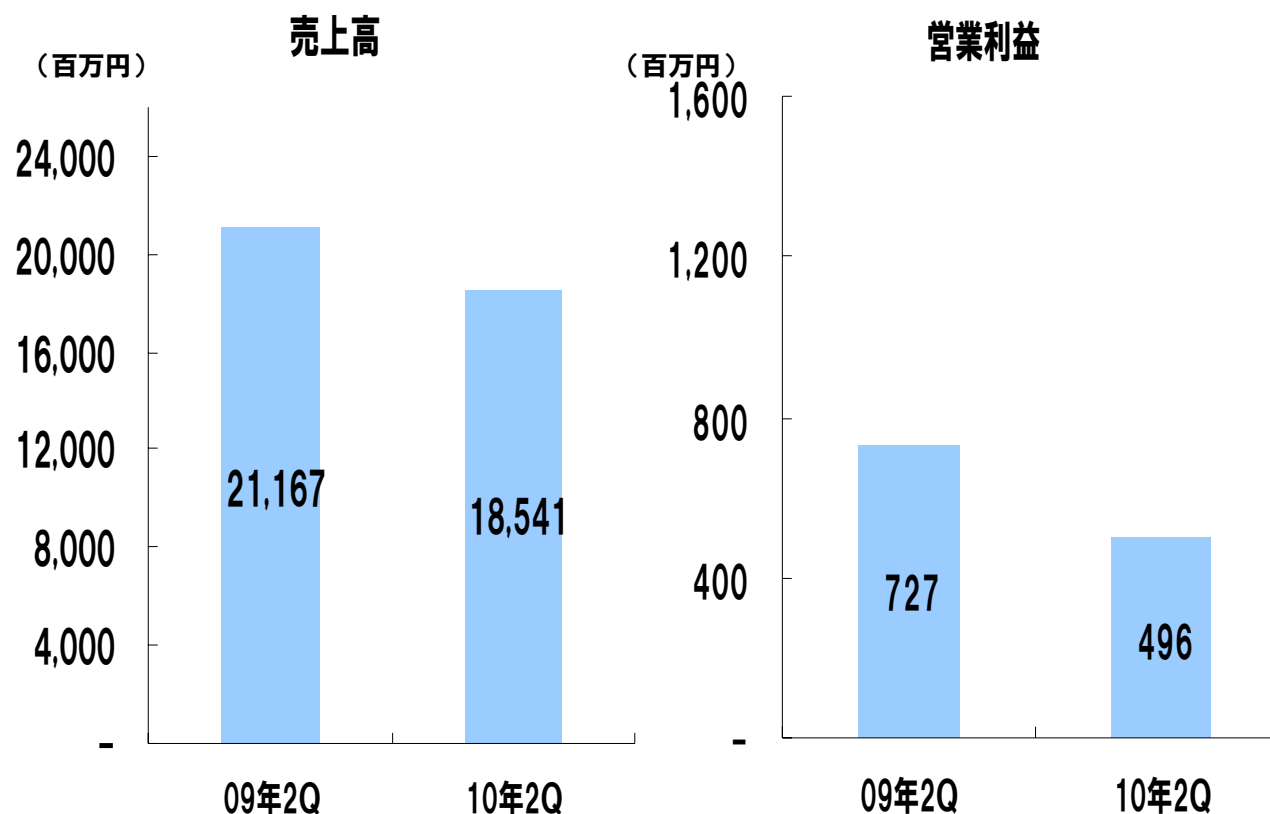


セグメント別業績の概要**セグメント別営業利益**

セグメント	09年2Q (百万円)	10年2Q (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	727	496	-231	-31.77
資材	-64	249	+313	-
エンジニアリング	-217	-86	+131	-
開発	1,316	1,789	+473	+35.94
コミュニティサービス	162	169	+7	+4.32
生活流通	-7	110	+117	-
グループ本社	-638	-649	-11	-
営業利益計	1,279	2,077	+798	+62.39

衣料繊維事業の概要

＜事業内容＞毛糸・毛織物・縫製品等の繊維製品の製造・販売



◆売上高

売糸は販売数量減を後半の販売価格上昇が補い微増収。

学校向け制服用素材はモデルチェンジ校の減少と流通段階での在庫調整などにより微減収。

官公庁向け製服用素材は官公庁の予算削減が続くなか積極的な企画・開発・提案により増収。

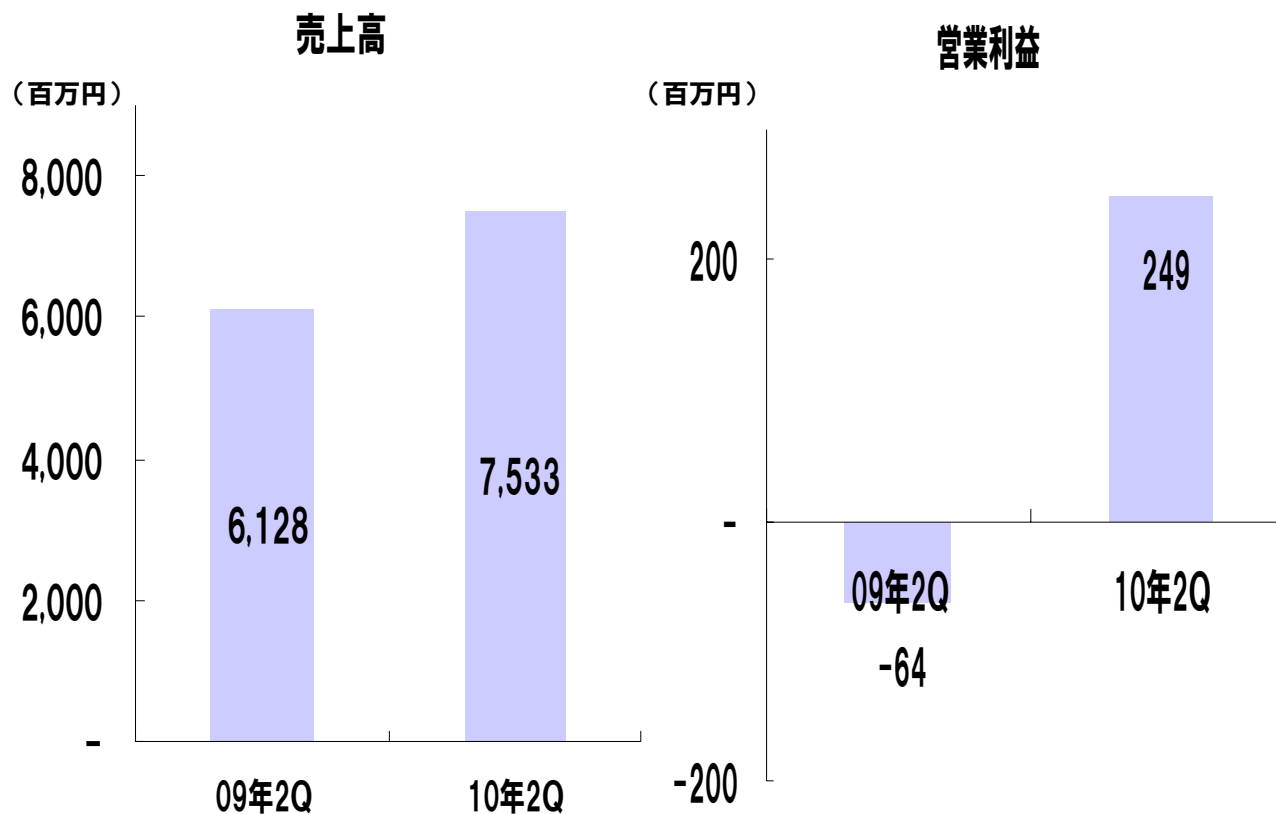
一般企業向け制服素材は大口物件が減少し減収。

メンズ・レディース向け素材・衣料製品は家計の消費支出減により減収。

海外向け事業はアジアでは健闘するも欧米景況に影響を受け減収。

資材事業の概要

＜事業内容＞カーペット・不織布・フェルト等の繊維製品、
テニス及びバドミントンガット等・釣糸・産業資材等の製造・販売



◆売上高

産業用資材は家電・自動車向け資材などが期初から好調を維持し大幅増収。

カーペットは建築着工量の低迷など厳しい環境が続き減収。

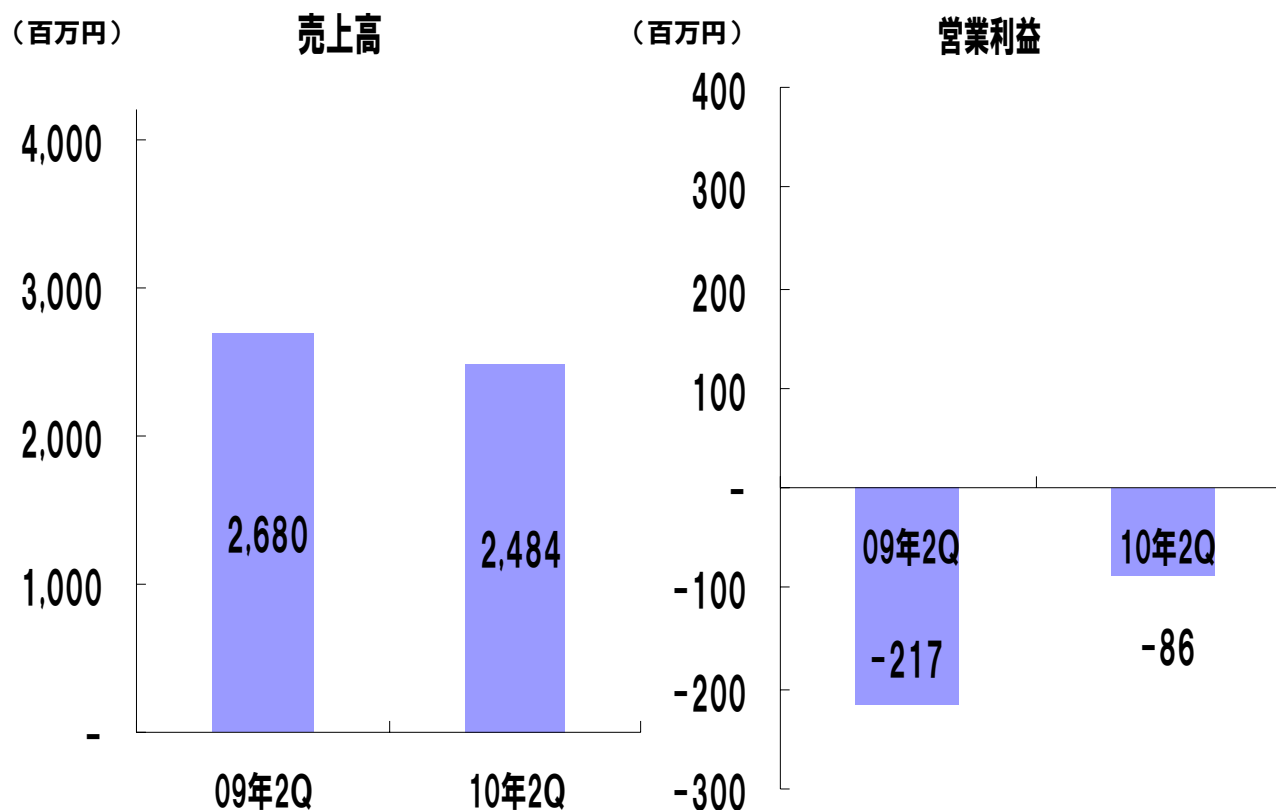
生活用資材のうち、ラケットスポーツ用品は国内販売が新型インフルエンザや景況の影響を受けたが、海外販売がOEM生産の受注拡大により全体では増収、釣糸は市場の低迷により微減収。

◆営業利益

産業用資材が大幅増収となったことなどにより増益。

エンジニアリング事業の概要

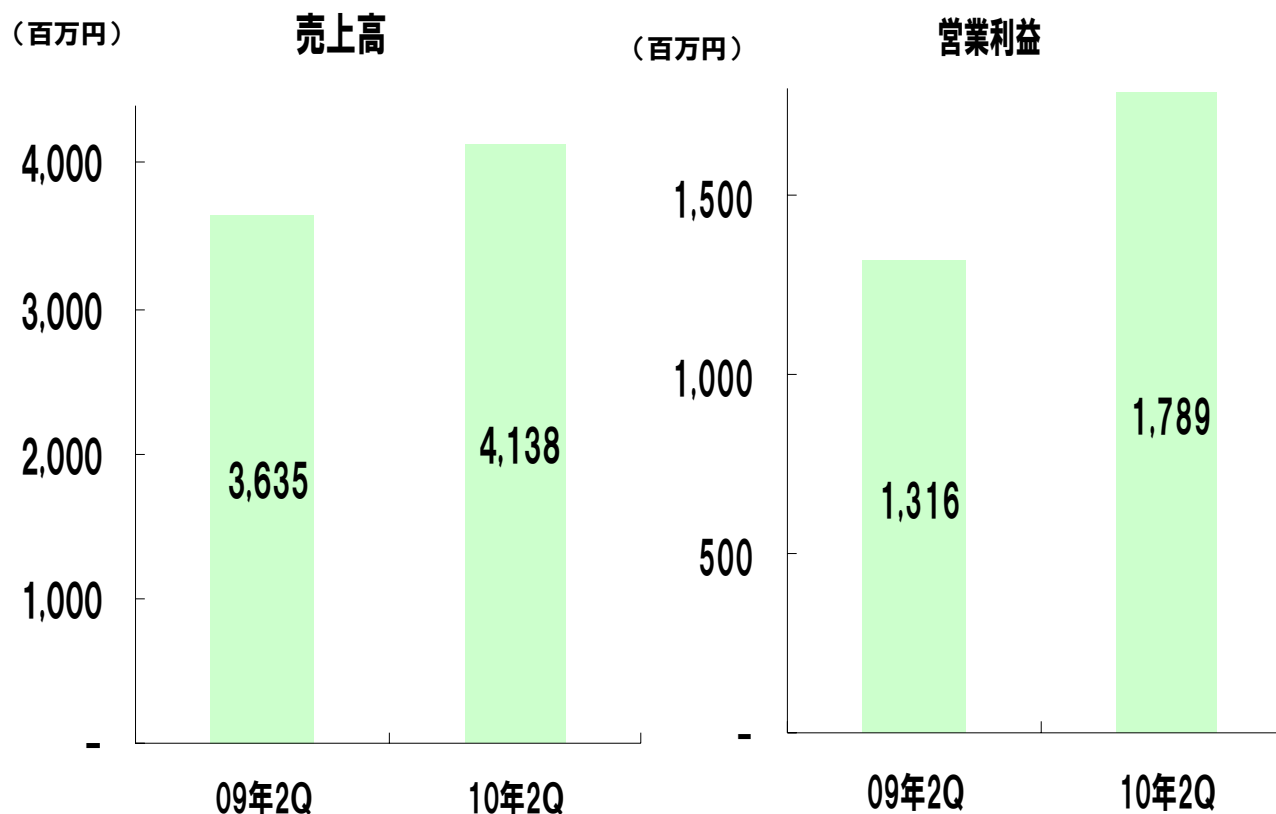
＜事業内容＞産業用機械の製造・販売、
電子・電気計測器及び制御装置の製造・販売



◆売上高
企業の設備投資に持ち直しの兆しが見られ、汎用機器(電源・計測器、画像検査機)は増収となったが、専用機(特定企業向け別注機器)は未だ売上寄与に至らず減収。

開発事業の概要

＜事業内容＞ショッピングセンターの賃貸事業、
不動産の建設・販売・賃貸



◆売上高

商業施設運営事業は「ニッケパークタウン」が個人消費の伸び悩みから減収、「ニッケコルトンプラザ」はリニューアル効果により増収となり、全体では増収。

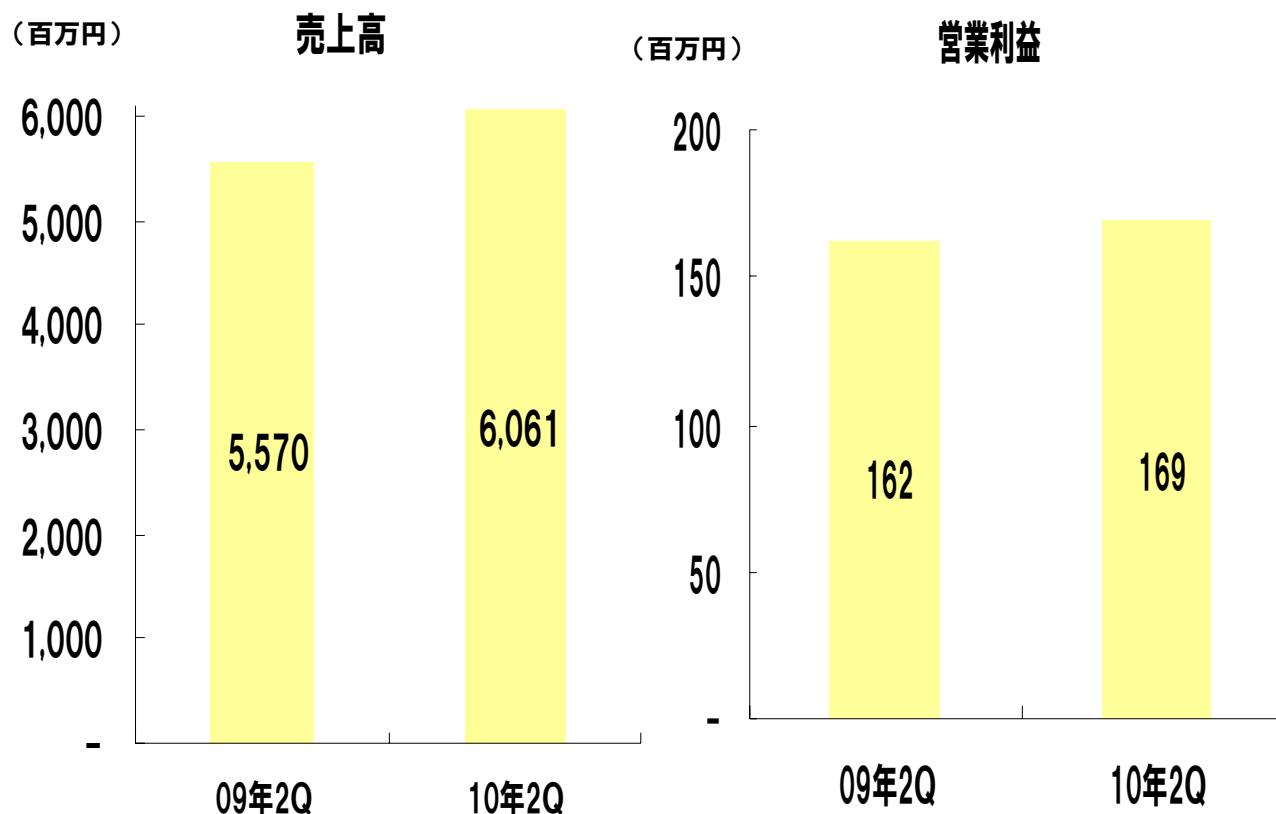
不動産事業は昨年10月に取得した賃貸オフィスが売上に寄与したが、景況悪化による既存テナントの撤退や賃料引下げの影響が大きく、全体では微減収。

◆営業利益

「ニッケコルトンプラザ」のリニューアル効果などにより増益。

コミュニティサービス事業の概要

＜事業内容＞ゴルフ・テニス・乗馬等のスポーツ事業、
携帯電話の販売、介護サービス事業、菓子小売



◆売上高

スポーツ事業はインドアテニススクールでは新規入会者の獲得が伸びず減収、ゴルフコース及び練習場では入場者数が微増するとともにグループ会社の決算期変更の影響もあり増収。

介護事業はデイサービス・小規模居宅介護事業ともに利用者が順調に伸び増収。

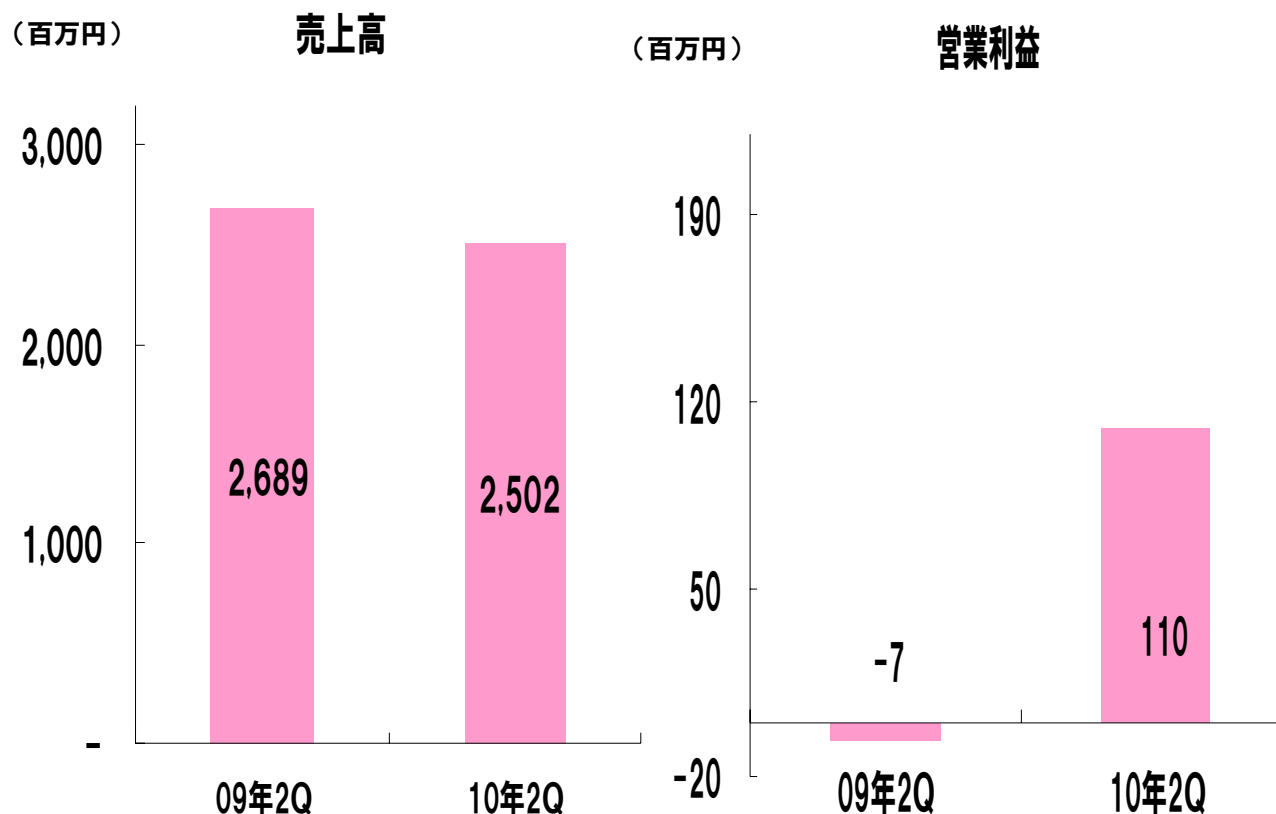
アミューズメント事業は個人消費の冷え込みが厳しく減収。

携帯電話販売事業は長期化していた買替えサイクルが一巡、販売台数が伸びたことにより増収。

屋内型会員制遊戯施設事業は新店のオープンにより増収。

生活流通事業の概要

**<事業内容> 毛布・寝装品・手編毛糸・馬具・乗馬・ペット用品・
ペットフードの製造・販売**



◆売上高
 寝装品は百貨店・専門店向けの消費が大きく落ち込み減収。
 イージーオーダー・手編毛糸は一般消費者の消費意欲が回復せず減収。
 馬具・乗馬用品は国内外の景気低迷が続き減収。
 ペット用品は小売の低迷と問屋の在庫圧縮により減収、ペットフードは消費者の低価格志向の強まりから減収。

◆営業利益
 馬具・乗馬用品の輸入販売における円高効果などにより増益。

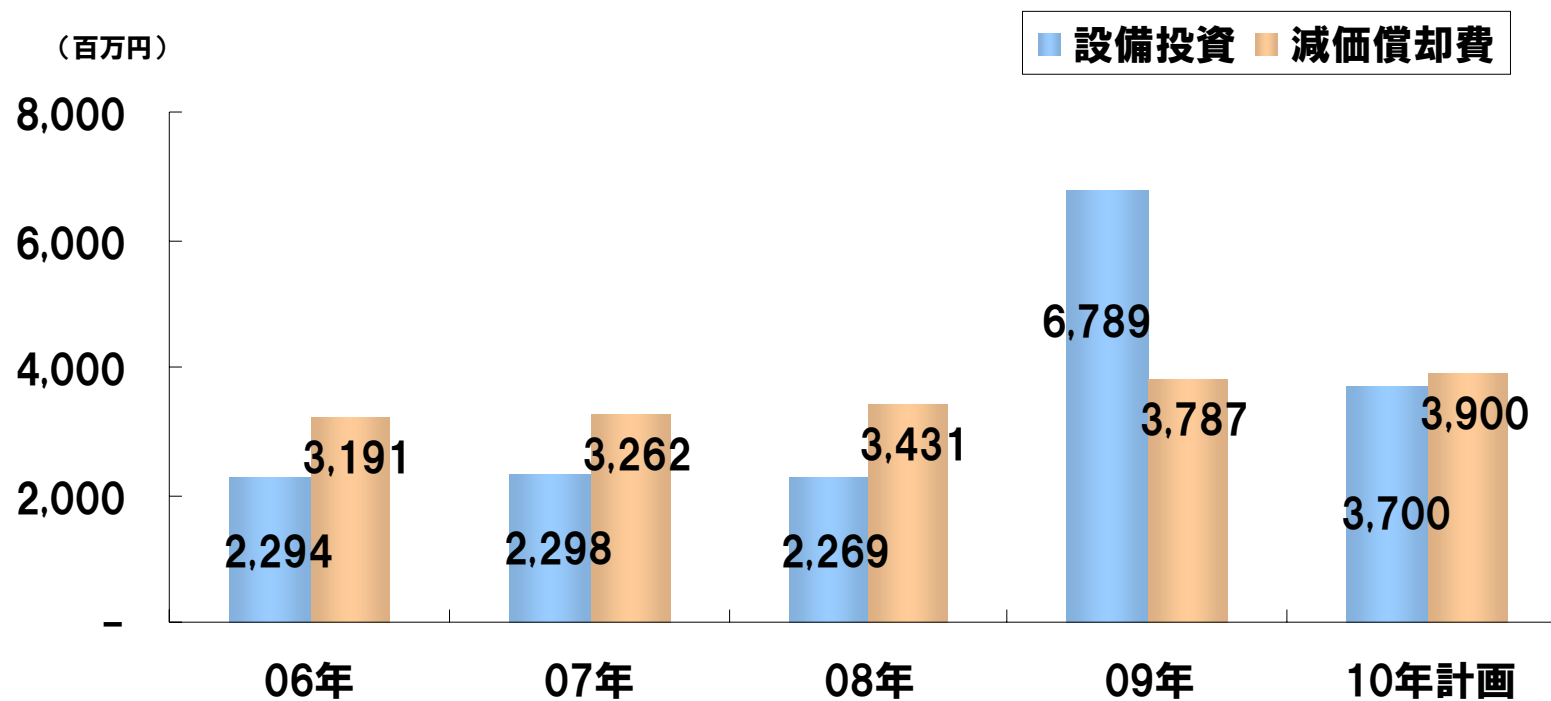
業績予想

	08年	09年	10年予想	増減
売上高 (百万円)	101,674	82,534	84,500	+1,966
営業利益 (百万円)	6,984	2,799	4,200	+1,401
経常利益 (百万円)	6,945	2,451	4,300	+1,849
当期純利益 (百万円)	4,035	797	2,100	+1,303
1株当たり 当期純利益 (円)	49.22	9.90	26.13	+16.23
配当 (円/株)	18	18	18	-

セグメント別業績予想

セグメント	10年予想	
	売上高(百万円)	営業利益(百万円)
衣料繊維	38,400	1,400
資材	14,900	500
エンジニアリング	5,300	-200
開発	8,400	3,200
コミュニティサービス	12,600	350
生活流通	4,900	64
グループ本社	-	-1,114
計	84,500	4,200

設備投資・減価償却費



対処すべき課題

当社グループは「ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)」の実現に向けて「NN120第1次(2009～2011)中期経営計画」を策定し、経営の基本戦略が共通する6つの事業領域を編成し、以下の施策を実行していく。

<衣料繊維事業>

強みである原料から織物までの一貫生産による品質と技術を更に強化し、高品質・高付加価値・高機能商品の提供と積極的な海外展開を推進する。

<資材事業>

裾野の広い産業資材分野での成長を目指すとともに、積極的なM&A戦略により、事業規模の拡大を目指す。

<エンジニアリング事業>

設計能力と商品開発の強化、積極的なM&Aを推進し、事業規模拡大と収益の安定化を目指す。

対処すべき課題

<開発事業>

グループ全体の資産の有効活用と価値向上を追求し、長期的な視点での「街作り」開発を推進することにより、資産価値の向上を図る。

<コミュニティサービス事業>

“コミュニティ＝地域社会”に貢献する独自の「ニッケのサービス」を創出・提供することにより、本格的なサービス事業の展開を目指す。

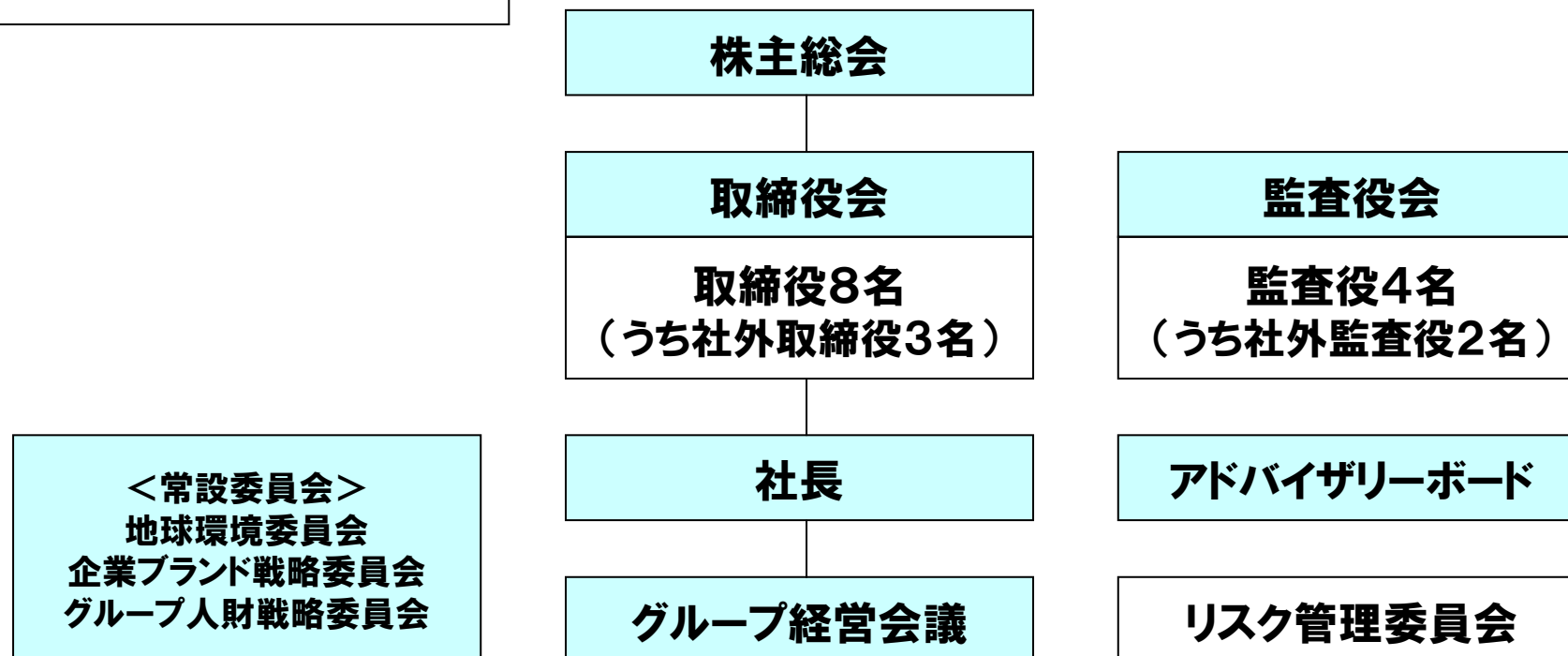
<生活流通事業>

戦略的ブランディングと生活文化を創造する商材開発によりその価値を高め、規模と収益の拡大を目指す。

当中期経営計画においては、6事業領域・全方位で、「限定せず、内向きにならず、外に向かう」という方針を進め、生産性向上への改革とより顧客の満足する新しい商品・ビジネスの開発を加速し、海外事業展開を積極的に実行する。

各事業領域において重要課題を明確化することにより、業績の回復に全力を挙げていく。

コーポレートガバナンス



2001年 取締役会議長を代表権のない取締役に

2005年 役員退職慰労金制度を廃止

2003年 取締役の任期を1年に短縮

2006年 執行役員制度を導入

2004年 アドバイザリーボードを設置

2007年 社外取締役2名に増員

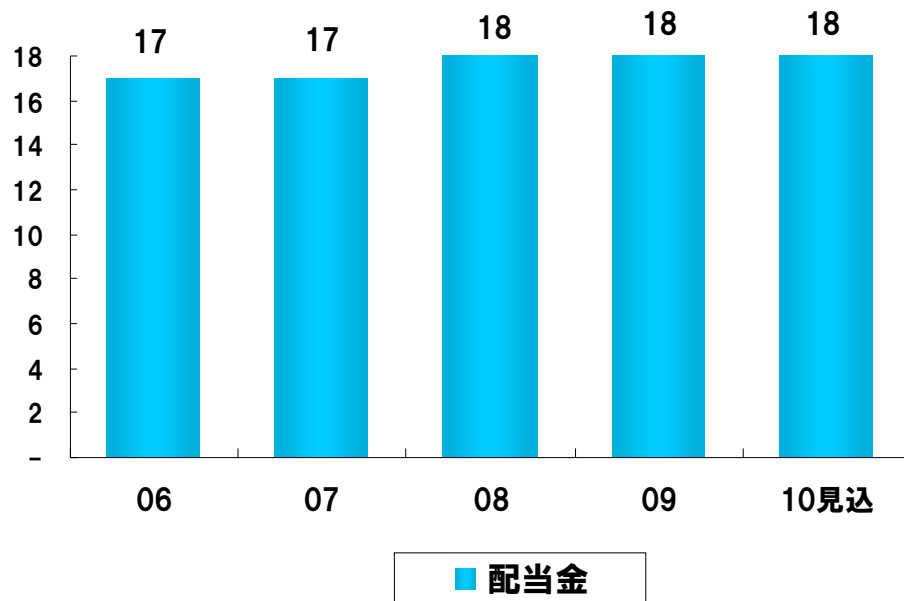
2009年 社外取締役3名に増員

株主還元方針

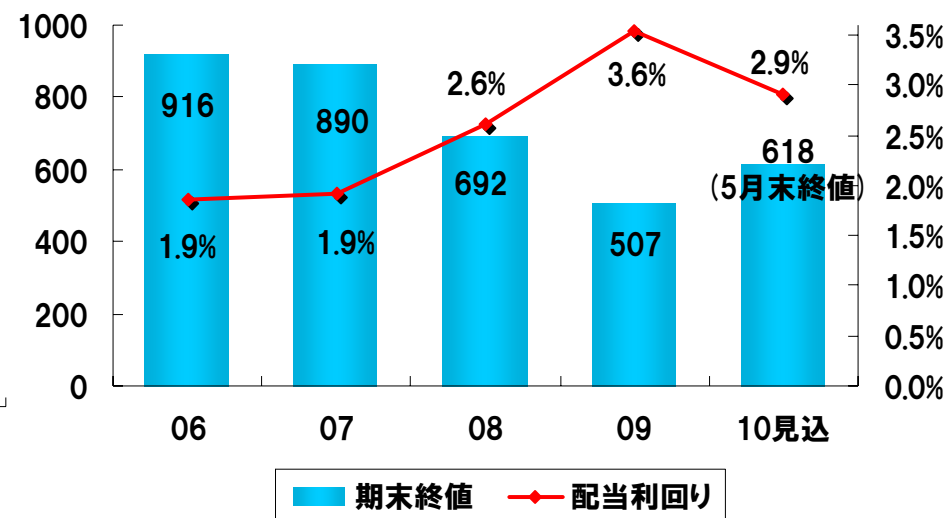
利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げていく。

今期については、引き続き年間1株当り18円を目標とする。

配当金の推移



株価・配当利回り



(参考) 羊毛相場・為替相場の推移

